

東腎協

第 3 号

1974. 2. 15

東京都腎臓病患者
連絡協議会 事務局

新年に当って

会長 寺田修治

明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはつつがなく、新年をお迎えになられたでしょうか。私たちが健康でないものにとつては、一同そろって新しい年を迎えらるるという事は、大きな喜びであります。本年は私たちが社会的弱者にとつては非常にきびしい状態の中で新年を迎えることになりました。

その私たちを守ってくれるべき防波堤である政治は、私たちが防波堤の外側に捨て置いたまま、内側に守っているのはほんの一部の国民だけであります。

しかし私たちがこの防波堤の輪を抜け、門を開かせずすべての国民が一人の落ちこぼれもなくその輪の中に守ってもらえるように、一人一人では石ころでしかない力を一つに合せて努力しなければならぬと思ひます。

私たちが例えていえば、波打ちぎわの小石のようなものであります。常に世の荒波にまっさきにもて遊ばれ、ぼんろりされ、陽の当たる時はほんのわずかだけ、そして.....

東腎協

福祉手当調査へ

東腎協は、都各区及び市町村に対し、十一月二十八日付で身体障害者(児)に対する福祉手当等の支給の有無について、照会を行なっています。

この福祉手当というのは、最近

各区及び市町村において、身体障害者(児)の福祉の向上を目的とする重度身体障害者(児)福祉手当等の名称で手当が、支給されているもので各地区によって、有無や支給金額が異なる様ですが、回答が集計できしだい、通知したいと思ひます。

直、一月現在で三十余所位の回答を得ているそりです。

例えば石油不足がたちまちに透析液にさえ生産削減となつて影響するといった例にみられるように.....

厚生省に要請

透析液の不足訴える

十二月二十四日全腎協(東腎協より参加)は透析液不足の問題について厚生省に要請をしました。

透析液不足の問題は関西地区の病院でメーカーより「透析液の生産について、源になるさく酸ソーダの不足により一月以降三〇%減、三月以降の見直しなし」との通告を受けました。生命の液とも言える透析液の減産は、我々患者には

私たち東腎協は、昨年十二月十六日の役員会において「第二回総会」について話し合い、次のように決定いたしましたのでお知らせ致します。

「東腎協第二回総会」

決定

日程については、三月三十一日(日)午後一時より五時まで会場はまだ未定です。交通の便のよいところを捜し

今年、東腎協結成二年目です。初年度の経験を生かして大きくジャンプする年に致しましょう。

全腎協

一応当日の企業課長の回答では各メーカーともに病院への供給については問題なく供給するとの事でした。

深刻な問題です。すぐ勝山副会長をはじめとして、全腎協のメンバー及び全患連の事務局長の応援を得て厚生省薬務部企業課長に会い透析液の減産問題について薬品メーカー側に減産せず供給するよう指示してもらおうと同時に、原料であるさく酸ソーダ等に関係企業より薬品メーカーに供給するよう要請しました。

しかし今後も、このような石油危機による一医薬品等の不足が考えられますので、我々も力を合せて問題の解決に要請行動等を行ない、努力しましょう。

東難連代表者、

美濃部都知事に

面談

難病対策について

一月十日、東難連はかねてより要望していた都知事との面談を行いました。都側の出席者は、都知事、衛生局長、医療福祉部長、特殊疾病課長、同係長で知事応接室に集り、対話をしました。

東難連の石川会長より次の六項目の要望書の内容につき、詳細説明を行いました。

- 一、医療相談、検診事業等、都委託事業の拡充。
- 二、特定疾患対策の拡充。
- 三、東難連財団法人設立時の施設設の貸与。
- 四、神経病院の早期完成。
- 五、保健大学の計画実施。
- 六、都の医療福祉部の行政上の位置づけ。

この結果、知事より次のような談話がなされました。

知事の話「この物価騰貴の時代故社会福祉については、物価スライド制にして行く積りである。私としては、特に都民の生活を防衛する為に税金を使いたい。又、身障者、難病者、老人等、世間の弱者を優先し、行政を行行積りである。」

×××××

請願、「都議会で採択」決定

昨年の九月十八日における都議会請願(第二号にて既報)は昭和四八年一月一日の都議会で、厚生文教委員会の請願審査報告の意見をつけて採択と決定されました。

私たち東腎協が、不十分なる執行体制にもかかわらず、ここまでやってこられたのも、各病院腎友会の方々、こぶし会を中心とする個人会員の方、患者家族や、それに賛同された方々からの暖かい支援があったからだと思います。

この一応の成果を基盤として、更に私たち東腎協のローガンである五項目の具体化をめざして、都や区市町村、又全腎協とのタイアップによる国への要請行動へと

まだ組織の充実化という点では改善の余地があると思いますが、できることから、手堅く一つ一つ皆様の御期待に沿うよう役員一同頑張っておりますのでよろしく。直、請願番号等は次の通りです。四八第一一四九号の三「じん臓病人工透析患者の医療の改善」

全腎協 国会請願へ

十二月七日(金)全腎協主催による国会請願が行なわれました。まず午前十時より衆議院第一議員会館において、都道府県腎友会代表約六十名の参加者と一部紹介議員による懇談会が催されました。やはり焦点となったのは、医療報酬の引上げを皮切りに社会復帰障害年金の受給資格、医療設備の充実などの要望が強く訴えられていました。

直紹介議員の方々には次の通り。(敬称略)

- 衆議院議員
- 田川 誠一(自)
 - 伊東 正義(自)
 - 田辺 誠(社)
 - 山本 政弘(社)
 - 寺前 巖(共)
 - 和田 耕作(民)
 - 坂口 力(公)
 - 田中美智子(革協)
- 参議院議員
- 矢山 有作(社)
 - 青島 幸男(二院)
 - 丸茂 重貞(自)
 - 小平 芳平(公)
 - 中沢伊登子(民)
 - 小笠原貞子(共)

事務局よりお願い
全腎協も同じ様な悩みを抱えて
いる様ですが、多大な
事務量に事務局は頭を
悩めております。

伝言板

というの、堀江事務局長の場合、週三回の透析、職業、事務局の仕事と、休むいとまもない状態です。事務の分散化案、窓口の多様な案などが役員会で呈示されましたが、決定的な案はない様です。

皆様の中で事務局を手伝って頂ける方、若しくは何かよい具体案
#####

をお持ちの方がありましたら、下記まで連絡をお願いします。
事務局 板橋区大和田二〇一二
自宅電(九六三) 八八一五

とらんすぶらんと(第二号)が十二月一日付で発刊されました。まだ読んでおられない方がありましたら下記まで申込みになって下さい。
直、腎普及会員は無料ですが、会員のの方は郵送料共二七〇円です。
港区新橋二一〇一五
新橋駅前ビル一号館八〇二
電(五七三) 一七六九

活動記録(九月以降)

9月9日	全腎協第二回幹事会開 催 当会より一清、加藤両氏出席	9月9日	全腎協第二回幹事会開 催 当会より一清、加藤両氏出席
9月16日	第九回役員会 請願の件、後半期計画等について討議	11月12日	小林副会長、都議会各 党を訪問
9月18日	都議会請願 堀江事務局長他一三名 参加	11月12日	小林、堀江氏、東京腎 センター訪問、入会を 訴える
10月14日	第十回役員会 組織拡大(病院訪問) などを討議	11月18日	第一回役員会 講演会について、助成 金調査などを討議
10月20日	機関紙「東腎協」第二 号発行配布	11月25日	講演会準備会議 国会請願(全腎協)、 厚生省交渉(全患協、 難病連)
11月8日	都庁折衝 役員泉山、平沢、大智 三氏、各部局で話し合	12月7日	国会請願(全腎協)、 厚生省交渉(全患協、 難病連)
		12月16日	第一二回役員会

編集後記

編集子、風邪を少しこじらせ、第三号を一月初旬に発刊する予定でしたが、静養のため日数のみ長くなってしまい、他役員並びに一般会員の皆様にごめいわくをおかけした事を心苦しく思っています。さて、わが東腎協も二年目をむかえ、第二回総会を控えての大会準備におおわらわらといったところです。

今年は寅年、新年早々石油危機が叫ばれ、物不足、売り惜しみ、買占めなど私たちににとっては暗いニュースばかり。厳しい試練の年となりそうですが、苦しい時ほど会員の方々が一層団結をかためて難事にあたる必要を感じます。紙不足にもめげず、皆様との交流の場である機関紙、時間の許す限りなるだけ発刊してゆきたいと思えます。

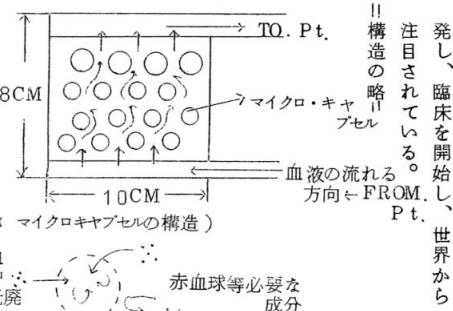
総会日程について、年賀状発送など討議
厚生省交渉
透析液不足問題で話し
合
東腎協より一清氏出席
第一三回役員会
総会議案準備について

講演と映画のつどい

世界の腎臓病治療
主催 腎臓移植普及会
後援 全国腎臓病患者
連絡協議会
一九七三(昭四八)一〇・二四
(於 イイノホール)

第一部 講演

※超小型人工腎臓の開発
マックギール大学教授(カナダ)
トーマスM・Sチャン博士
要旨 手のひらにのる大きさ(高さ8cm、直径10cm)のマイクロキャプセル超小型人工腎臓を開発し、臨床を開始し、世界から注目されている。



赤血球等必要な成分
血中老廃物
マイクロキャプセルは、セルロース膜、アルブミン膜等で作られており、その中には尿素分解酵素、イオン交換樹脂、活性炭等がはいっている。

(以下次号)